

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 5 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 5 月 2 日(2024.5.2)

【公開番号】特開 2022-91819(P2022-91819A)
【公開日】令和 4 年 6 月 21 日(2022.6.21)
【年通号数】公開公報(特許)2022-111
【出願番号】特願 2022-39836(P2022-39836)
【国際特許分類】

F 1 6 G 1/28(2006.01)

10

F 1 6 G 1/08(2006.01)

F 1 6 G 5/06(2006.01)

D 0 2 G 3/16(2006.01)

【F I】

F 1 6 G 1/28 E

F 1 6 G 1/08 A

F 1 6 G 5/06 A

D 0 2 G 3/16

【手続補正書】

20

【提出日】令和 6 年 4 月 23 日(2024.4.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

本発明は、エラストマー製のベルト本体と、前記ベルト本体に埋設されるとともにベルト幅方向にピッチを有する螺旋を形成するように設けられたカーボン繊維製の心線とを備えた伝動ベルトであって、前記心線を構成する前記カーボン繊維の総フィラメント本数が 12000 本であり、前記心線が前記カーボン繊維のフィラメント束を一方向に撚った片撚り系であり、前記片撚り系の心線の長さ 10 cm 当たりの撚り数が 4 回 / 10 cm 以上 10 回 / 10 cm 以下であり、前記心線のベルト幅 10 mm 当たりの本数が 7 本 / 10 mm 以上 9 本 / 10 mm 以下であり、ベルト伸張率 0.2 % 時のベルト幅 1 mm 当たりのベルト張力 $T_{0.2}$ が 90 N / mm 以上 140 N / mm 以下であるとともに、ベルト伸張率 0.5 % 時のベルト幅 1 mm 当たりのベルト張力 $T_{0.5}$ が 220 N / mm 以上 300 N / mm 以下である。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

40

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

エラストマー製のベルト本体と、前記ベルト本体に埋設されるとともにベルト幅方向にピッチを有する螺旋を形成するように設けられたカーボン繊維製の心線と、を備えた伝動ベルトであって、
前記心線を構成する前記カーボン繊維の総フィラメント本数が 12000 本であり、
前記心線が前記カーボン繊維のフィラメント束を一方向に撚った片撚り系であり、
前記片撚り系の心線の長さ 10 cm 当たりの撚り数が 4 回 / 10 cm 以上 10 回 / 10 c

50

m以下であり、

前記心線のベルト幅 10 mm 当たりの本数が 7 本 / 10 mm 以上 9 本 / 10 mm 以下であり、

ベルト伸張率 0.2 % 時のベルト幅 1 mm 当たりのベルト張力 $T_{0.2}$ が 90 N/mm 以上 140 N/mm 以下であるとともに、ベルト伸張率 0.5 % 時のベルト幅 1 mm 当たりのベルト張力 $T_{0.5}$ が 220 N/mm 以上 300 N/mm 以下である伝動ベルト。

【請求項 2】

請求項 1 に記載された伝動ベルトにおいて、
前記ベルト本体がポリウレタン樹脂で形成されている伝動ベルト。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載された伝動ベルトにおいて、
前記心線を構成する前記カーボン繊維が PAN 系カーボン繊維である伝動ベルト。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載された伝動ベルトにおいて、
前記カーボン繊維のフィラメント径が $4 \mu\text{m}$ 以上 $9 \mu\text{m}$ 以下である伝動ベルト。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載された伝動ベルトにおいて、
前記ベルト張力 $T_{0.2}$ / ベルト張力 $T_{0.5}$ が 0.55 以下である伝動ベルト。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載された伝動ベルトにおいて、
前記ベルト本体が歯付ベルト本体である伝動ベルト。

10

20

30

40

50